

平成30年度 教育指導部 方針書

教育指導部長 江畑 譲

1. 部の使命（役割）

楽しく学び、郷土愛あふれるまちづくり
～郷土を愛し、共に語り、共に未来を切り拓く人を育てるまち、横手～

2. 平成30年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく備えた子どもを育成する取組の一層の充実
- ・地域局や関係部局との連携した取組の一層の推進
- ・子どもが安心して楽しく学べる教育環境の充実
- ・安全・安心な学校給食の提供と食育の推進

3. 平成30年度の『スローガン』

育てます、生きる力と横手愛

4. 年度目標となる方針（目標）

(1) 生きる力と横手を愛する心を育む学校教育の充実

- ①教育指導の充実
- ②いじめ、不登校の未然防止と早期解消の実現

(2) 安全で安心して学べる教育環境の整備

- ①就学前施設から小学校への円滑な接続
- ②教育環境の整備
- ③学校給食における生活習慣病予防の取り組みと、地場産食材の使用率向上

5. 重点取組項目

(1)	項目	生きる力と横手を愛する心を育む学校教育の充実
	取組内容	・授業改善の一層の推進による学力向上に向けた指導・支援の拡充 ・幼児期から成人期に至る一貫した指導・支援の確立を図る特別支援教育の充実 ・いじめ、不登校の未然防止と早期解消を実現する生徒指導体制の構築と情報モラル教育の一層の推進 ・未来を切り拓く力や望ましい職業観をはぐくむキャリア教育、防災教育の充実
(2)	項目	安心して楽しく学べる教育環境づくりの推進
	取組内容	・小・中学校通学路の安全対策の推進 ・スクールバスの安全で適正な運行管理 ・児童生徒及び学校職員の健康の保持増進を図る ・就学前施設と小学校の連携しやすい体制の構築
(3)	項目	安全で安心な、子どもが親しむ学校給食の提供
	取組内容	・学校における食育の一層の推進 ・食中毒や異物混入対策の徹底と、確実な食物アレルギー対応の実施 ・秋田県版HACCPに基づく衛生管理の徹底

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

(1)教育長訪問や指導主事訪問等、市内各小・中学校への訪問を通して、学びの質を高めるために授業改善や学校図書館の有効利活用、NIEの推進への指導助言を行ってきた。本市学校教育目標の具現化のため、各小・中学校においては、全職員の共通理解のもと具体的な取組みが推進されている。また、生徒指導では「居場所づくり」「絆づくり」をキーワードとし、各校でいじめ、不登校の未然防止への積極的な取組みがなされている。

(2)幼保小合同研修会の開催や一日学校体験、保育体験等の実施により、着実に就学前施設から小学校への円滑な接続ができつつある。横手市通学路安全推進会議の開催等、通学路整備においては、危険箇所の点検等が計画的に行われており、児童生徒の安全・安心な登下校のための環境づくりが進められている。

(3)学校給食では、減塩献立の回数を増やしたり、「横手のごっつお給食」を実施し、児童生徒の健康を考えた給食の提供や横手市で生産されている野菜などについて食べながら学ぶ機会を設けることができた。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1)10月下旬には、本市独自の学力向上プランである「言語活動の充実による学力向上推進事業」の公開研究会が平鹿中学校区の1中学校、3小学校を会場に開催される。その成果と課題を市内全教職員で共有し、各校の学力向上につなげていくことができるよう指導・支援を行っていく。また、危機管理意識を高め、児童生徒のよりよい学校生活を保障していく。

(2)幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するために協議を行う組織づくりを進める。すべてのスクールバスへのドライブレコーダーの設置をはじめ、スクールバス安全運転講習会の実施等、児童生徒の登下校への安全・安心な環境づくりに継続して取り組む。降雪期に入ることもあり、運転手への一層の注意喚起をすすめていく。

(3)栄養教諭等による訪問指導の継続と、小児生活習慣病防止に関わる保護者への情報発信により、食による児童生徒の健康管理を推進する。また、地場産食材の使用率向上に向けた対策を検討していく。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1)市内全小・中学校において、学びの質を高めるための授業改善や学校図書館の有効利活用、NIEの推進が全職員の共通理解のもと図られた。平鹿中学校区で開催された公開研究会では、これらの実践成果が発信され、参加者にとっては大変貴重な一日となった。他の中学校区でもこの実践を参考に着実に研究を深めている。また、児童生徒の「居場所づくり」「絆づくり」を核とした、いじめのない学校を目指す各中学校におけるY8サミットの取組は、小中連携により小学校にも良い影響を与えている。

(2)幼児教育と小学校教育との円滑な接続を推進するための「横手市幼少接続推進協議会」が設立され、これまで以上に共通理解しながら推進していく体制が構築された。通学路整備に関しては、危険箇所の把握・改善が図られ安全安心な通学路が確保されてきている。降雪期におけるスクールバスの事故も無く、これは運転手の安全運転への意識の向上、バスの管理点検の徹底によるものと考えられる。

(3)栄養教諭等による授業実践や学校給食の「減塩献立の日」の増加などにより、食による児童生徒の健康管理を推進することができた。また、秋田版HACCPに基づいた安全安心な学校給食を提供できた。地場産食材の使用率向上については、春から秋までは順調に推移しているが、冬場の使用率の向上が課題となっている。保存可能な食材か、加工品として提供するのか等、今後も検討していく必要がある。